

# 地球科学輻合ゼミナール

(2012年度 後期 第7回)のご案内

## 深層崩壊の発生場と内部構造

千木良 雅弘

防災研究所 地盤災害研究部門

2009年の台湾小林村、2011年の紀伊山地と、立て続けに発生した深層崩壊の発生場とその内部構造について講演する。これらの深層崩壊は、長期的な地形発達過程の面からは、古い地形面が新たに河川に下刻されて不安定になった領域で発生したことが明らかになってきた。また、詳細に見ると、深層崩壊発生前に斜面の重力変形が進んでおり、それが斜面上部に小規模な崖として表れていたことが航空レーザー計測データの解析によって明らかになった。これらの知見は、地形発達上での深層崩壊の役割を理解し、また、深層崩壊発生領域や個所を予測する上で大きな進歩をもたらした。深層崩壊は、このように重力によって斜面が徐々に変形した後に発生するが、従来はその変形の構造的特徴、特にメソスコピックな特徴は明らかでなかった。しかしながら、近年の高品質ボーリング技術によって、その内部構造を詳細に観察することが可能になり、その特徴が明らかになってきた。

11月21日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 303号室